平成３１年度刈谷市ごみ減量化推進会議議事録

日　　時	令和２年１月２２日（水）午後１時３０分～午後２時５０分
場　　所	刈谷市役所７階　７０１会議室
出　席　者	ごみ減量化推進会議委員　１２名出席／２０名（別添委員名簿の通り） 産業環境部　岡部部長 ごみ減量推進課　加藤課長、近藤課長補佐、加藤、高橋
議　題　等	（１）ごみ減量化の進捗状況と施策について （２）店頭等における資源物回収実態調査の結果について （３）食品ロス削減について （４）その他

１　あいさつ

（１）副市長あいさつ

・・・ＳＤＧｓや、プラスチック循環戦略・レジ袋有料化等、国内外で話題になっている中で、委員の皆様には、各立場からのご意見等を頂戴したい。

（２）会議の説明等【事務局】

・・・配布資料１５ページ「刈谷市ごみ減量化推進会議設置要領」に沿って説明。
現在の委員（２０名）は令和２年３月末までの任期とする。
会長は引き続き、愛知教育大学准教授　榊原　洋子　氏、副会長は引継ぎにより、刈谷市自治連合会代表　近藤　博英　氏に依頼をしている。

（３）会長あいさつ

・・・世界的な問題として環境問題が挙げられている。対策を進めていてもどんどん進行してしまっているのが現状である。ＳＤＧｓが採択されている中で、目標を持って具体的な施策を続けていく必要がある。２０３０年までに何が達成できるのか、例えばその３年前までには何ができるのか、何をしなければいけないのかを考えていかないといけない。この会議でも、委員の皆様からよいアイデアを出していただきたい。

２　議題【事務局】

（１）ごみ減量化の進捗状況と施策について

・・・配布資料１～１２ページに沿って説明。
総ごみ排出量（市で処理しているごみや地区資源回収で集まったごみの総量）は、毎年増加しているが、人口増加のわりに家庭系ごみは大きく増加しておらず、事業系ごみの増加率が高い。

＜質疑応答＞

【会長】：資料３～５ページの回収量、数量、出品点数等が前年より減っているが、何か思うところはあるか。コンポスト容器の数量が減っているのは、前から使っているものを継続して使っていると考えられるが、リサイクルプラザの出品数が減っている理由は、どのように考えるか。

【事務局】：アンケートは取っていないが、インターネットでメルカリ等の普及により出品数が減っているものと推測をしている。

【会長】：学生等は少し使っただけですぐに高額で売ってしまう人が多い。ごみ減量の観点で見れば、ごみとして捨てているわけではないので、個人でのごみの量は増えていない。ただし、日本人全体のごみとして考えると、これからの傾向に注目していくことが大切である。どんなごみが減っているのか、どんなものがリサイクルとして回っているのか、ということを調査してみるとよいのではないか。

（２）店頭等における資源物回収実態調査の結果について

・・・配布資料１３ページに沿って説明。

＜質疑応答＞

【会長】：数値から見ると、店頭回収は大変な効果を示している。今後も回収していただ

くことは有効であると考える。もっと促進していくためのアイデアがあったらよい。
店側として回収する資源物の種類は増やせるか。消費者側として、こういったものが捨てられたらよいというものはないか。
【委員】: 今から実績を上げるには、店舗数を増やすしかないと思うが、例えば農協に回収所を設置するのはどうか。
【委員】: マルチや農家が使った資源物は、回収しないといけないため回収しているが、産直販売で出る発泡スチロールは農家から出るものは少ない。回収箱を作ることはできなくもないが、農家が直接持ってくるものは、段ボールや発泡スチロールには入っていないことが多い。
【委員】: そもそも回収の前に、できればビニール袋やトレーなどを使わないでほしいという気持ちがある。トレー等を使わないで販売する方法はないか。もとを絶ってほしい。購入時にその場でトレーを捨てている人もいる。
【会長】: 既に食品を包んでいるところから、汁が出ないようにわざわざ二重、三重に包んで帰る人もいる。店側で包まなくなると、個人対応になり余計にごみが出る可能性もある。環境問題として逆行していかないよう、多くの人の知恵を使わないといけない。
【委員】: ある程度上の人たちが決めてしまえば、私たちもそれに従ってやっていく。
【会長】: レジ袋が一部有料化すると、マイバッグを持っていない人がレジ袋無料のところに行きやすくなるし、レジ袋が店に用意されていないと、マイバッグに入る量より多く購入した人が困ってしまうということもある。
【委員】: 東京都はごみの分別種目が少ないため、刈谷市が分別に取り組んでいることはありがたい。汚れたプラごみは燃えるごみとなっているが、プラごみはどのように処理されているのか。最終的に燃やしているのであれば分別は意味がないのではないか。高温で燃やしてエネルギーにしているのか。プラごみとして出されたものでも、汚れたプラごみが混ざっていると、業者が分別するのにお金がかかってくるのではないか。
【会長】: 焼却場は施設見学もできるため、一度見ていただくとよいと思う。確かにプラごみは高温で燃えるため、燃やして処理することが多い。プラスチックからプラスチックへリサイクルするにも、使われている原料の種類が多いため難しい。完全に分別ができればよいが、それが難しいため、燃やして発生した熱をエネルギーとして回収しているのが現状。リサイクルするには逆にお金がかかる。
【委員】: 刈谷市職員が着ている作業服は、ペットボトルのリサイクル繊維を使用している。刈谷市としては、リサイクル製品を積極的に使用するよう心掛けている。
【事務局】: プラ製容器包装は製品原料にリサイクルするため、汚れのひどいものは除外するようお願いをしている。
【委員】: そのようなことを市民にお知らせしたほうが良いのでは。
【委員】: 学校で小学生に教えているのではないか。
【事務局】: 環境学習の一環として、小学４年生へ冊子を配付している。
【会長】: 小学校で環境学習をしているため、家族間でコミュニケーションをとって、子どもたちから家庭での話題になることが望ましい。

（３）食品ロス削減について

・・・配布資料１４ページに沿って説明。
現在、国において「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」の素案が示されている。食品ロス削減は、消費者、生産者、ごみ処理など、内容が多岐にわたるため、関係者などとの情報共有や調整、連携を進めていきたいと考えている。委員の皆様にも、食品ロス削減に向けてご協力をお願いしたい。

＜質疑応答＞

【会長】: 法律ができる前から、子ども食堂やフードドライブといった活動を始めている団体も刈谷市にはある。
【委員】: 自分は農家として産直販売に出して、売れないものは持ち帰るが、もったいないため、その場で子ども食堂などに回収してもらえるとありがたい。再び持ってい

く時間もないし、そのような活動をしている場所も分からない。

【委員】: 農協でも話題に上がっており、現在検討中である。無料であげるわけにもいかないし、商品が古くなってもし何かあったときの責任をどうするのか、といったところで議論をしている。福祉施設等にあげることができないかも検討している。

【会長】: 中立的な立場で、行政でも何かやってもらえるといい。

【委員】: 自分は賞味期限・消費期限にあまりとらわれずに生活をしている。年をとると嗅覚が鈍ってはくるが、臭いで判断して消費期限が１か月過ぎても大丈夫だったものもある。若者は期限が過ぎると捨ててしまうからもったいない。臭いでもう少し判断することがあってもよい。

【会長】: 期限表示は法律によるところもあるが、きちんと読むと分かることもあるため、もう少し教育していったらよい。行政から広報を行うという手もある。

【委員】: 私たちはフードドライブ活動を足掛け３年行っている。年２回、１月と６月に環境推進課が主体となって行っているミニ環境フェアの中で、家庭で余った乾物などを集め、ひかりの家などの施設に持っていく活動をしている。

【会長】: 市民だよりやホームページなど、今後の啓発にうまく載せていってほしい。一方方向ではなく、双方向で繋げていってほしい。

３　その他【事務局】

①スプレー缶の回収方法の変更について（資料なし。）

・・・昨年２月から、試験的に桜地区、高須地区にて穴あけせずに分別収集しており、実施状況も順調であるため、今年の５月から市全域での分別収集を行う方向である。

実施方法は、中身を使い切ったスプレー缶を、各市民館、市役所などの公共施設設置の回収容器に排出してもらい、市の委託業者が週１回収集する。３月中旬に全戸配布するクリーンカレンダーへの掲載や、市ホームページ、あいかりアプリ等で、広報周知する予定である。

なお、しばらくの間は、これまで通り、穴あけ後に空き缶・金属類として回収する方法と併用実施していく。

②プラスチックごみについて（追加資料「プラスチック資源循環戦略（概要）」を参照。）

・・・国連の持続可能な開発目標ＳＤＧｓを受け、国が「プラスチック資源循環戦略」を策定している。

「リデュース等」という重点戦略にワンウェイプラスチックの使用削減という項目があり、議題の中で説明したレジ袋の有料化義務化はこの項目にあたる。プラスチックストローの使用を控えることや啓発物品のプラスチック包装をやめることなどもこの項目に該当する。

また、「再生材バイオプラ」という重点戦略には、可燃ごみ指定袋などへのバイオマスプラスチック使用という項目がある。可燃ごみ等の指定袋については、市から製造業者への聞き取りを行い、その可能性について調査を進めている。現在のところ、強度は別にして、可燃ごみ袋にバイオマスプラスチックを１０％混ぜると、１０％値段が上がると聞いているため、バイオマスプラスチックの使用については引き続き検討していく。

＜質疑応答＞

【委員】: ごみ袋が変わっても、ごみの量を減らしたり捨て方を変えたりしたらよいのではないか。ごみ袋代が高くなるのは困る。

【会長】: これまでの実験でも、変更後すぐはごみの量が減るが、また元に戻ってしまうことが分かっている。

【委員】: 刈谷市のごみ袋は他市に比べて安い方ではないか。

【事務局】: 一例として、量販店において税抜きで９９円。同時に販売されていた安城市と大差なかった。知立市よりは安いが、中間くらいの値段である。

【会長】: 難しい問題ではあるが、長い目で進めていってほしい。

【委員】: 刈谷市との境目に住む市外の人は、刈谷市のごみ袋が安いため、刈谷市でごみを捨ててしまう人もいる。県内で値段に差があると、そういった弊害が発生する。県内で値段を統一するなどした方がよいのではないか。

【会長】：井ケ谷地区でも、名古屋市のごみ袋で刈谷市に捨ててしまう人もいて困ったことがある。

【委員】：町内会で一番困るのは、ごみの問題。ごみが散乱していたり、分別されていないごみが収集されずに残ったり（分別が細かいため、慣れていない人もいる）して、そこからさらにごみを呼んでしまっている。散乱していることから、地域内に汚い場所ができてしまう。分別しなければいけないのは分かるが、収集時にすべて持って行ってくれれば、町として綺麗さが保たれるのではないか。

【会長】：ルールに沿っていくことで、ごみの減量化が進んでいくが、ルールに沿えないところでどのようにやっていくか、本日の意見を踏まえ、今後の施策に活かしてほしい。

以上